

大山町所子(鳥取県)

(1) 保存地区の概要

(地区名) 大山町所子 (種別) 農村集落
 (面積) 約25.8ヘクタール (選定年月日) 平成25年12月27日
 (特徴) 大山町所子伝統的建造物群保存地区は、

集落内を通る道に軸方向に沿わせた主屋、その周囲に建てられた長屋門、蔵、納屋、厩舎などの諸施設が配されている。

それらの建物には、近世から昭和30年頃に建築された伝統的な建築物等が多く残され、鳥取県伯耆地方の農村の伝統的な形式をよく伝えている。

また賀茂神社北正面の「神さんの通り道」と呼ばれる帯状の空間を挟んで、所子の「カミ」「シモ」の家屋群が位置する集落形態は、所子集落において歴史的に形成された個性的な景観となっている。それらの周囲に位置する近世以降の地割を伝える田畑、農家の敷地や田畑周りを縦横に巡る水路等が家屋群と一体となって、伝統的な農村景観を形成している。



(2) 保存地区のあゆみ

- | | | | |
|-----------------|------------------------------|-----------------|---|
| 平成22年 1月 | 伝建制度にかかる住民説明会開催 | 平成22年 8月 | 第一次保存対策調査終了、報告会開催 |
| 平成22年 9月 | 『大山町所子伝統的建造物群保存対策調査報告書』刊行 | 平成22年12月 | 地元住民が「所子伝建委員会」を設立 |
| 平成24年12月 | 大山町伝統的建造物群保存地区保存条例施行規則制定 | 平成25年 1月 | 大山町伝統的建造物群保存地区保存条例制定 |
| 平成25年 5月 | 大山町伝統的建造物群保存地区保存審議会規則制定 | 平成25年 5月 | 第1回大山町伝統的建造物群保存地区保存審議会開催 |
| 平成25年12月 | 官報告示「重要伝統的建造物群保存地区」選定 | 平成26年 5月 | 国重要文化財「門脇家住宅」一般公開と併せて町並み保存会によるまち歩き散策ガイド開始 |
| 平成27年 3月 | 所子重伝建選定一周年記念シンポジウム開催 | 平成28年 4月 | 所子伝統的建造物群保存地区が構成文化財の一つとして「日本遺産」認定 |

(3) 保存地区の保存と整備

主な整備状況

(平成28年度) 修理 3件 (平成29年度) 修理 2件 修景 1件 (平成30年度) 修理 2件 修景 1件 (平成31年度) 修理 1件

(修理事業の例)

(修景事業の例)



(修理前)

(修理後)



(修景前)

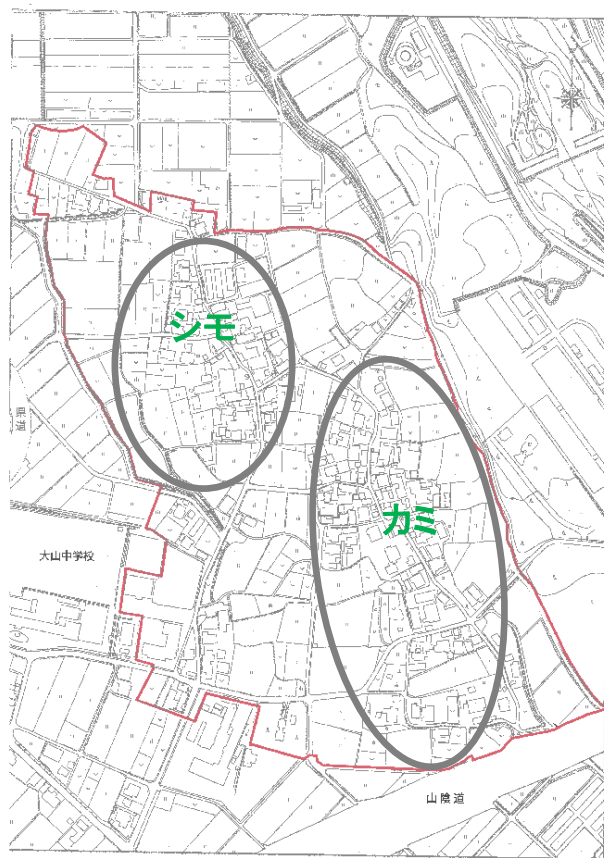
(修景後)



(4) 保存地区の活用とまちづくり

(主な特徴)

- ・平地農村型で**カミ**・**シモ**の家屋群及び近世以降の地割を伝える田畑から構成されている。
- ・農業を生業とした特徴ある伝統的建造物が、周囲の農地及び水路と一体となって歴史的風致を形成し良く残されている。



圃場整備前(昭和44年)

圃場整備後(平成21年)

(活用とまちづくり)

- ・上記のとおり農業を生業とした特徴ある伝統的建造物群が、周囲の農地及び水路と一体となって歴史的風致を醸しだしている。
- ・また、古くから大山道沿いの所子伝統的建造物群保存地区では、母屋に近い小屋で牛馬が飼われていた。地区内には「牛繋ぎ石」や「牛馬万人供養塔」などが残存しており、このような「牛馬信仰」などと大山の自然が結びつき、「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーが平成28年4月に「**日本遺産**」として認定され、広く知られるところとなった。

(ボランティアガイドの活動)

地区内では、「所子町並み保存会」の会員が中心となりボランティアガイドが行われている。

活動としては、毎年春と秋に行われる国重要文化財「門脇家住宅」一般公開期間中と随時申込があったときに、見学者の人数に応じて地区内のガイドをしておられ、現在5名のガイドで活動されている。



ボランティアガイド
の活動の様子



ボランティアガイド利用人数は下記のとおりとなっている。

(平成29年)	(平成30年)	(平成31年)
139名	202名	104名

平成28年4月の「日本遺産」認定、平成30年の「大山開山1300年祭」以降、所子地区にも多くの来訪者が訪れるようになった。今後更にボランティアガイド活動の必要性も増してくることが想定されるため、保存会でも人材の確保とガイドの知識向上の取り組みが課題となっている。

(5) 住民等の取組み

(地区住民の取組み)

地区内では盆踊り、賽の神さん、とんどさんなどの年中行事が現在もとりおこなわれている。

住民憲章のなかに網羅しているように「自然の景観と先人たちが営々と築いた歴史文化」を誇りとされており、地区内の人々が主体となって伝統的な農村集落の歴史的風致が保全され、育まれていく取組みがなされている。



賽の神さん

(地区住民の声)

「所子の町並みの魅力」

この所子という地区の町並みの魅力は、「農村集落の景観と共に、集落に暮らす人々の生活の息づかいが感じられるところ」だと思う。この魅力を次世代へも継承していきたい。

(町並み保存会ボランティアガイド)

「住民が誇れる伝建地区にむけて」

「大山(だいせん)さんのお蔭で」と伯耆富士大山(だいせん)の雄姿を神と崇めてきた農村集落に、国重要文化財「門脇家住宅」を本(もと)とする小さな町並みがあって、「集落の調査が必要」そして「伝建地区」へと流れは至極自然であった。

選定後6年を迎え、来訪されるお客様からは「いい所ですなー」と所子の印象は良く、ボランティアガイドも頑張っているところである。

いっぽう修理・修景の基準は特に住民(施主)にとって不本意な場合がある。冷やかかでも、終わりは協力してくれる住民に寄り添い、いつの日か「伝建のお蔭で」と住民が誇れる伝建地区を目指したい。

(町並み保存会会長)